

町 長	副町長	教育長	課 長	主 幹	担 当	合 議

別記様式第4号

会 議 等 結 果 報 告 書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	952
		決裁期日	令和5年2月1日
名 称	文化財保護委員会会議		
日 時	令和5年1月30日（月） 13時30分～14時30分		
場 所	公民館 第1研修室		
出席者	委員 9名(木下、富永、澤田、北向、大西、三原、田中、北川、松本) 教育委員会 鈴木教育長、谷口教育振興課長、村上主幹、佐藤根主任		
内 容	<p>【教育長挨拶】</p> <p>【委員長選出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今任期において初めての会議のため、慣例により委員長を選出。 ・前任期も委員長であった北向一博委員を事務局より提案し、承諾を得た。 <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土館・開拓記念館の開館状況、並びに日曜・祝日開館、来館者状況について説明。緊急事態宣言などによる臨時休館もなく、また、令和4年1月の日本ジオパークの認定や特別展示などにより、昨年にくらべて来館者は増えている。 ・郷土館事業について説明。今年度は郷土館を会場とした特別展「指定文化財後藤純男素描展」、「写真展シマフクロウの聲が聴こえる」、及び小学生を対象とした郷土探求事業「カミフクエスト」といった新規事業を実施した。また、「かみふらの10大ニュース」について、投票方法を従来の紙による投票のほか、インターネットによる投票を新たに行った。 <p>○委員からの意見等</p> <p>(1) 郷土館で特別展示をするにあたり狭さがネック。資料室を整理し展示室として活用するのはどうか。(北向委員)</p> <p>→検討する。</p> <p>(2) 素描展で展示したのは指定したものすべてであるか？(北向委員)</p> <p>→指定した371点のうち、素描画が240点ぐらい、そのうちの10点程度(正確には9点の作品と後藤純男氏を紹介するパネルや資料)を展示。</p> <p>(次ページへ続く)</p>		

(3) 2026年は大賞泥流から100年にあたる年なので、文化祭特別展示などで資料を展示するなど、検討いただきたい。(三原委員)

→3年後に向けて検討する。

(4) 10大ニュースについて、投票する数が現在は5つだが、実際投票する側として多く感じた。3つぐらいなど少なくすることはできないのか。

(富永委員)

→本年の結果を見ながら検討する。

【協議事項】

1 町内にあるアイヌ関連資料の調査について

昭和初期まで東中地区において行われていた旭川のアイヌの方との交流により残された木彫りの作品が、松浦武四郎が北海道を踏査するにあたり、十勝日誌において記された本地域を通過したとされる上川アイヌにより案内された経路が、昭和初期まで使用されていた物的証拠となることなど、町とアイヌの関わりを示す貴重な品であり、所有者の世代が変わるにつれて町外に散逸したり廃棄されたりする可能性があるため、調査及び重要性の啓発を行うものである。対象となるものは、大量生産された観光土産の木彫り作品ではなく、製作者により銘が彫られた作品とする。

○委員からの意見等

調査の結果は、いつ報告されるか。(北向委員)

→次回の文化財保護委員会開催時に資料をまとめて報告する。

2 その他

郷土館の改修について情報提供。十勝岳ジオパークの拠点施設となっており、時系列に沿った展示替え、通年開館、土足利用といった改修を令和5年、6年で行う予定。冬期の開館については、夏に引き続き開館ボランティアの対応をお願いしたいと考えている。

○委員からの意見

(1) 郷土芸能資料館のスペースを活用して、ジオパークのコーナーや郷土館の地下倉庫にある資料を展示してはどうか。また、郷土館の展示で映像資料を増やせないか。(北向委員・田中委員)

→郷土芸能資料館については、まだ活用の方向性は決まっていない状況である。

(2) 十勝岳爆発横死牛馬追善記念碑の台座が傾いている。管理は誰が行っているのか。管理者が不明なら調査してほしい。(田中委員)

→町の所有物ではないが、雪が解けたら現場を確認する。